

「地域を支える建設業」検討会

第38回全体会議

分科会 資料

分科会資料 1

総合評価落札方式におけるICT活用工事を対象とした評価
についての要望事項

(別紙)

支部名 _____

次の項目につきまして、取りまとめをお願いいたします。

項 目	意見・要望等
1. ICT技術活用の評価は個人と会社のどちらが、適切か。	
2. 総合評価の加点の実施は令和2年4月からで適切か。	
3. ICT技術を活用した費用について、設計単価と実費との差異がある中で、総合評価の加点についてどう感じているか。	
4. ICT活用工事の発注件数が少ないため、受注機会が少ない地域もあり、総合評価加点の導入についてどう感じているか。	
5. その他の意見	

総合評価落札方式におけるICT活用工事を対象とした評価についての要望事項

1. ICT 活用工事における評価対象について

評価対象を会社とする (理由) 技術者が少なく、特定の技術者に偏りが生じてしまうため。

2. 実施時期が令和2年4月からの公告案件から適用について

実施が早すぎる (理由) 発注件数、施工実績のある会社が少ないため。さらに、台風19号の災害復旧対応で施工実績が少なくなると思われる。

3. その他要望事項

- ① 全ての総合評価落札方式に適用せず、ICT活用ができる場所等選択式で実施してほしい。
- ② 実績の有効期間は3年～5年としてほしい。
- ③ コンサルのデータを三次元化する手間が大きな負担であり、コンサルが先に成果品として納入してほしい。
- ④ ICT建機の小型化も推進しており、小規模土工での運用可能となってほしい。
- ⑤ 国のICT関連の要領・要項に100%合致させるだけでなく、ケースによって柔軟に対応してほしい。
- ⑥ 県の設計単価と実際の費用との差異を解消してほしい。

・ICT技術はICT建機など、リース対応しているのが現状であり、設計単位は m^3 であり、リース単位は月であるため、大きな差異が生じている。

総合評価対象案件では施工規模が大きくなり、費用差は比例して大きくなる傾向となる。

・ICT建機(特にバックホウ)の稼働ばかり見るのではなく、土砂運搬のサイクルを考慮しないとICT建機の稼働率は上がらない。ICT建機とダンプトラックのサイクルを考慮した設計にしてほしい。また、ICT建機の稼働率に対応して頂ければ生産性は向上する。

(例) 1週間5日稼働日として、5日間毎日ICT建機1台が稼働の場合は稼働率100%となり、5日間の内、通常建機が追加で3日稼働

の場合はICT建機5日+通常建機3日で稼働率(5/8,62.5%)となり、ICT建機の稼働率が下がり、費用は満額みてもらえない。

生産性向上を図るならば、通常建機で完成断面手前まで粗掘り+DTへの積込、ICT建機で仕上げが一番効率よい。

*ICT建機2台で施工しても建機に係る費用は1台分しか計上されない。

・ICT関連の金額は一式計上で内容が不明であり、わかるようにしてほしい。

・ICT建機がリース対応であり、悪天候や冬季施工などの影響を受ければ、費用が増すのを解消してほしい。

・マシンガイダンスとマシンコントロールの設計単価が同じであるが、建機のリース単価の違いが大きい。